

## 理事長二期目就任に当たってのご挨拶

理事長 小寺良尚  
(名古屋第一赤十字病院  
輸血部、造血細胞移植センター)

盛夏、会員の皆様にはご清栄の段、大慶に存じ上げ奉ります。

去る 2006 年 6 月 2 日に開かれました有限責任中間法人日本造血細胞移植学会平成 18 年度第一回理事会におきまして、任意団体であった日本造血細胞移植学会時代に続き理事長を更に一期務めるよう仰せ付かりました。本学会には次の理事長にふさわしい優れた理事が多くいらっしゃると思いましたが、2 年前理事長にご推挙いただいたときにお約束したことも未だ道半ばということもありまして僭越ではあります再度お引き受けすることといたしました。

本年 3 月、皆様のご尽力により当学会は法人格を取得いたしました。造血細胞移植認定(専門)医・認定(専門)看護師・認定施設等を整備していく上で必須と思われる条件でしたので、法人化出来たことを先ずは共に喜びたいと思います。法人化の目的であった認定(専門)医制等を考えていただく担当理事も決まりましたので来る 2 年間にはその実現を目指したいと思います。

当学会の様々な活動の基盤とも言うべき全国データ集計事業は、今までそれと並行して行われていた小児血液学会による造血細胞移植小児領域データ集計事業、骨髄移植推進財団による非血縁者間骨髄移植データ集計事業、さい帯血バンクネットワークによる臍帯血移植データ集計事業と、症例登録用紙や登録方法を基本的には一つにすることにより一元化されました。又、その実務を担当するデータセンターも当学会が寄付者となり、データ集計・管理・活用を目的とした造血細胞移植情報管理学講座が設立されたことにより充実しつつあります。他方、2000 年 4 月に始められた末梢血幹細胞ドナーフォローアップ事業は、初期の 5 年を終え、2005 年 4 月からは骨髄ドナーも含めた血縁造血幹細胞ドナー事前登録・フォローアップ事業へと発展し、懸案の血縁ドナー(骨髄・末梢血)傷害保険もこの 3 月より利用可能となってから登録率は更に向上しています。来る 2 年間はこれら集計データをガイドライン委員会、臨床研究委員会等が中心になって利用し、わが国のエビデンスを作り、わが国発の新知見を作ってゆく時になるようにしたいと思います。

法人化に伴い学会事務局機能も充実してきました。従来業務委託をしていた会員情報管理、会費管理、ニューズレターの発行、ホームページの更新管理等の業務は全て専任学会

事務局員が担当することになりました。今までともすれば会員の皆様にはご迷惑をかけることも少なからずありましたが、来る 2 年間はこれらをより正確に管理すると共に、特にニューズレターを季刊にして充実させ、会員相互の情報交換、学会のアピールに努めたいと思います。

先の学術総会で承認されました任意団体日本造血細胞移植推進機構は、従来の任意団体としての学会に育まれてきた自由な学会活動を担保しておくうえで重要です。来る 2 年間は嘱託弁護士、嘱託公認会計士の方たちと相談しつつ、この機構と法人学会とが車の両輪として機能し、会員の皆様に利益をもたらすよう努めたいと思います。

各種委員会も若いメンバーが加わるなど新しい時代を迎えています。来る 2 年間はそれぞれの委員会が今まで以上に多くの成果を産み出すことが出来るような環境を整えたいと思います。

2006 年は健康保険薬価改訂年でありましたが、当学会が要望したドナー安全管理加算等は残念ながら採用されるに至りませんでした。これら当学会の要望は患者・ドナーの要望を反映したものであることにもう一度思いを致し、2008 年度改訂に向け造血細胞移植に従事する会員の皆様、関連職層の努力が報われ、ひいては患者・ドナーの利益に繋がるようこの 2 年間努めたいと思います。

当学会と関連の深い日本血液学会・日本臨床血液学会、日本移植学会、日本輸血学会にも近年変化が見られます。又、IBMTR, EBMT との情報交換も不可欠です。今年は又、アジア・太平洋 BMT 学会がわが国で開かれます。様々の機会を捉え、当学会の基盤を強化し、役割を明確にしてゆきたいと思います。

昨今の医学・医療を取り巻く環境は更に厳しく、造血細胞移植はともすれば特殊な分野として見なされかねない状況にあります。しかしながら我々が実践している医学・医療は、全年令層を天災の如く襲う疾病に対し高い確率で治癒と社会復帰をもたらすものであり、明日の細胞治療、再生医療を産み出すものであって、断じてマイナーではないことをアピールしつつ学会の更なる発展に微力を尽くしたいと考えております。

末尾になりましたが会員の皆様のご健勝を願い、理事長再任のご挨拶といたします。どうぞ宜しくお願いいたします。